

造影 CT 検査用 ヨード造影剤についての説明書

造影 CT 検査では、非イオン性ヨード造影剤という薬剤を注射します。

この造影剤は、病気の有無や病気の性質、範囲といったことをより正確に評価するために用いられるもので、使用するかどうか（造影検査の必要性）は、主治医・担当医が判断いたします。

造影剤を使用すると、まれに副作用が起きることがあり、ぜんそくやアレルギー体質の方ではこの確率は高くなります。

副作用の種類は次のようなものです。

1. 軽い副作用

吐き気、かゆみ、くしゃみ、咳、咽喉頭（のど）違和感、動悸、頭痛、発疹などです。

造影剤投与直後に現れることが多いですが、検査の 1～2 日後に発疹が現れることもあります。

これらは治療を要さないか、1～2 回の投薬や注射で回復するものです。

このような副作用の起こる確率は 100 人につき 2～3 人（約 2～3%）です。

2. 重い副作用

呼吸困難、ショック、意識障害、血圧低下、腎不全などです。

このような副作用は、通常は治療が必要で、場合によっては後遺症が残る可能性があります。

このため、入院や手術が必要なこともあります。

このような副作用の起こる確率は、10,000 人につき 3～4 人（約 0.03～0.04%）です。

また、非常にまれですが、病状や体質により 40 万人につき 1 人（0.004%）の確率で死亡する可能性があります。

3. 遅発性副作用

検査終了数分後から数日にかけて副作用（発疹、掻痒感、吐き気、脱力感、むくみ、めまい）が現れることがあります。（検査終了後にお渡しする説明書を確認してください。）

4. 造影剤を注射するときには、

① 体が熱くなることがありますが、直接の反応であり、心配ありません。

② 急速に造影剤を注入するために、まれに血管外に造影剤が漏れる場合があります。

この場合、注射部位が腫れて痛みを伴うこともあります。基本的には時間が経てば吸収されます。

ごくまれですが、漏れた量が非常に多い場合には別の処置が必要になることもあります。

◆検査前 4 時間は絶食してください。

ただし水分の制限はありません。十分な水分補給（無糖：水・お茶など）を行って下さい。

◆糖尿病の薬（メトホルミン製剤）を服用されている方は、検査前後の 48 時間、メトホルミン製剤の休薬が必要です。医師にご相談ください。

◆ヨード問診表・同意書は検査予約時に必ず記入していただき、検査当日に当院へお持ちください。

（安全のため、記載内容によっては造影検査を中止させていただく場合がございます。）

◆検査当日になって体調変化などの理由で、患者さんからの申し出により造影検査を中止することもできます。このようなときは検査担当者にお申し出下さい。

◆当院では検査中、スタッフが患者さんの様子を観察しており、万一の副作用に対しても素早く対応が出来る体制を整え、安全に検査を行っています。

◆造影剤投与後、異常を感じたら、ためらわず、直ぐにお知らせ下さい。

◆授乳婦の方は、造影剤投与後 48 時間は授乳を避けて下さい。

◆その他、分からないことや気になることがあれば、検査担当者にお申し出下さい。